

わたしたちの同窓生  
 (89周年)  
 会員数 23,818名  
 在校生数(全・定) 1,246名  
 昭和63年3月24日現在

同窓会報  
**椎の樹**

1988.3.24 第2号

発行所 群馬県立高崎女子高等学校

同窓会

高崎市稲荷町20 電話(0273)62-2585

発行責任者 斎藤 民

印刷所 ほその印刷



校歌

一 朝夕窓に仰ぎ見つ  
 榛名の山の高きかな  
 高き山のぼる心もて  
 心の珠は磨かぬむ  
 榛名の山の高きかな  
 あたに夕べに徳をそとつめ

二 毛野の広野の遠けも  
 果てなくつづく文の道  
 たゆまうまき道みなば  
 かをわう花も手折つて  
 も野の広野の遠けに似たる  
 学びの道を勇みそ行け

三 流れてやまわ大利根や  
 瀬を越え岩をくぐりつづ  
 絶えず流れて来たに  
 海とぞ行く尊とぞ  
 利根の流れの絶えぬが如き  
 尊と力を身にそとて

着々すすむ  
 創立九十周年  
 記念事業

学校長 荒木健一  
 二回生(明治末ごろ)

「お正月近くなれば広い雨  
 天体操場が通れないほど、  
 羽根つきで一ぱい。また、  
 雨の日のお昼休みなど、ス  
 クエアダンス、ピアノの音  
 に誘われてだんだん広がる  
 和やかさ。」(七回生(明治  
 四十年前後))

「当時は乗り物と何もなく、  
 母校東の前橋新道には  
 馬車が唯一の交通機関とし  
 て走っていた。」

テニスの好きだった私は  
 三、四年頃さかんにやった。  
 放課後少し夢中になつてい  
 ると時間の経つのを忘れ、  
 堀の外を豆腐屋のラッパが  
 鳴るのもうそんな時間か  
 と慌てて帰途に着く。」(十

「あの頃はスポーツといつ  
 ても種目は極く少なく、テ  
 ニスの他はピンポン、羽根  
 つき等でなんとといっても一  
 番盛んなのはテニスであつ  
 た。私が二年生のとき、前  
 橋の女子師範学校に遠征し  
 たのが他校試合の初めであ  
 る。その後県下の高等女学  
 校(前橋、桐生)との対抗  
 試合が催され、学校の庭球  
 熱はいやが上にもわきたつ  
 った。当時の服装がまたふる  
 つていた。普段は真夏でも  
 着物に袴、白足袋というい  
 でたちなので、運動の場合  
 も勿論着物、ただ下は袴の  
 裾を足首のところで括って

草履ばき、いくなれば角兵  
 衛獅子といった恰好、また、  
 帽子が変わつてゐる。昔の  
 看護婦のようなもので、額  
 のところに赤い松の形の記  
 章がついてゐる。」(二十一  
 回生(大正十年前後))

「横手元校長先生は、全  
 校生徒のスポーツを奨励さ  
 れて、この広い校庭のすみ  
 ずみまで、先生と生徒のス  
 ポーツする姿が毎日昼休み  
 には見られました。学期毎  
 にバスケット、バレー、テ  
 ニスの校内の大会、大会が  
 盛んに行われて、全校選手  
 といった感じでした。」(三  
 十回生(昭和初期))

昭和三十年の生徒の文芸誌  
 「椎樹」から引用したもので  
 す。明治、大正、昭和三代にわ  
 たりスポーツに焦点を当てて  
 同窓生の思い出を綴つてみま  
 しました。これは記念事業をたくさ  
 ん計画いたしておりました。  
 既に図書館と椎樹館の生徒の  
 合宿室に冷暖房が入りました。  
 また本校舎と椎樹館をつなぎ  
 ます棟間通路も今年度中には  
 完成する事になっております。  
 期別幹事の方々を通じてま  
 して、皆様にご寄付をお願いし  
 ています。資料等の展示記  
 念館は、同窓会の寄付で賄う

も、ご家族とか最寄りの卒業  
 生等で資料をお持ちの方がござ  
 いました。是非ご連絡下さい  
 ませ。又九十周年記念学校史  
 につきましても、編集委員や  
 協力委員の方々を中心に母校  
 に関する思い出や、懐古談等  
 集めておりますので、あんな  
 事、こんな事、たくさんござ  
 ります。ぜひいらっしやる事と思  
 いますので進んで積極的にご  
 一報下さいませ。様々願ひ申上  
 げます。

展示の資料として昔なつか  
 しい袴、運動の時の裾をく  
 った形から段々短い運動袴に  
 そして今日の様な形への変遷  
 等並べられたら楽しいと思ひ  
 ます。

同窓生の方でこの展示館が  
 意義ある内容でござります  
 事を切に願つております。  
 どうぞ皆様の絶大なご協力  
 をお願い申し上げます。ご接  
 拶にさせていただきます。

ごあいさつ

同窓会長 斎藤 民

五月二日の総会通知を兼ねま  
 しておとどけする事になりま  
 した。今回は母校の九十周年  
 に向けての諸準備もございま  
 すが、同窓生の皆様の近況も  
 段々に掲載してまいりたいと  
 存じまして、先づ年代別に、  
 七十才代、六十才代、五十才  
 代、四十才代、三十才代の、  
 クラス会等のご様子をご報告  
 していただく事にいたしました

の会報でご通知にさせていた  
 だきますのでよろしくご了承  
 下さいませ。  
 さて母校も来年昭和六十四  
 年五月一日に九十周年を迎え  
 る事になります。人間で考え  
 ませば九十才というまことに  
 長命をお祝いでございます。  
 九十周年を迎えます事につ  
 きましては、前回の会報でも  
 申し上げましたが、母校とい

尚展示の資料につきまして

長き二七メートル、ガラス張  
 りで半円型の屋根は見た目  
 も大変美しく高女の名物とな  
 りましょう。椎樹館が非常  
 に使いやすくなります。

九十周年記念展示館につい  
 ては、同窓の方々の絶大なご  
 尽力をいただくことになつて  
 おりますが、現在基本設計、  
 実施設計を進めており、秋に  
 は着工の予定です。第一室は  
 「目で見る」一学校の歩み。第  
 二室は開校以来の卒業生の記  
 念作品等の展示。第三室は同  
 窓会・PTA・生徒会・教育  
 振興会の活動やその成果を展  
 示。第四室は資料の収蔵を予  
 定しております。高女は、文  
 字どおり県女であり、高女の  
 歩みは即本県女子中等教育の  
 歴史ともなりますので、記念  
 展示館は県教育資料館の一つ  
 ともいえましょう。

さて、学校史の編纂につい  
 て二十七回生(昭和三年卒)  
 四十三回生(昭和十九年卒)  
 ぐらいの方々に特にお願ひし  
 たいのですが、当時の校友会  
 誌「松のゆかり」が学校に保  
 存されておられませんので、ぜ  
 ひ保存されている方がおりま  
 したらご一報下さい。また、  
 存知寄りの方にお願ひして  
 下さいます。なお青春の熱き思  
 いのこもつた学校史にするた  
 めにも当時の作文、作品、刊  
 行物、写真等もございましたら  
 ご連絡いただきたいと思います。

次の方々が編集委員ですの  
 でよろしく願ひします。

区分	教員	同窓生
明治期	羽鳥 三谷	工藤 (高9) 吉野陽 (高11)
大正期	持田 齊藤	吉野烈 (高9) 岸 (高13)
昭和前期	関 金井	星野 (45) 吉田 (46)
昭和後期	石原 折茂	吉村 (高5) 森平 (高5)



すばらしいの一言

紅葉に映える高原めぐり

武藤 静代 (37回)

十月四日、待望の同窓会旅行の日、さわやかな秋晴れでした。当番の高11回の皆さん...

途中、りんどう湖ファミリ―牧場で昼食、丁度日曜日だったので牧場は大変な賑わいでした。煙の出ている那須



健一先生には、長年にわたる教育界での功労者として、昭和六十二年十一月十三日国立劇場にて、文部大臣表彰受賞の荣誉に浴されました。

記念品は、高女旧職員でもあります、かの有名な中村節也先生の絵画(六号)でした。校長先生のため、特にお描き下さいました由、赤城山の雄大な姿の大変立派な作品でした。

二重の慶びに湧く母校

○学校長荒木健一先生

○高女 P T A

母校からは荒木校長、田川事務長、P T A 係の井田先生と、P T A 会長の佐股潤氏が出席され、八〇〇〇名という大勢の会員の見守る中で、全国で九校という少数の表彰の名誉ある受賞でした。

お祝い申し上げた次第です。出席者は総勢三百名に及びました。教育委員児玉貴氏をはじめ、教育長千木良寛氏らの祝詞につづき、斎藤氏同窓会長が一同を代表して、記念品の贈呈を致しました。

江戸時代を満喫

日光江戸村見聞記

高橋 節子 (44回)

翌日は上天気恵まれ、竜王峡のすばらしい滝を見、日光江戸村を見聞記

入口は閑所になっていて陣笠の門番が二人、六尺棒を持って無表情に身動きもせず立っ

色々な商売のお店が並び、昔懐かしい品々をお土産品として売っています。南蛮茶屋に入ると若侍とお姫様に扮装の美男美女のカップルがソフトクリームを齧っていました。



か見られませんでした。楽しかった。思い出は、在学中は勤労奉仕に明け暮れ修学旅行もなく、今四十余年振り同窓の友との旅行は夢のように現在の平和な世の中を本当に有難いと思

思えば在学中は勤労奉仕に明け暮れ修学旅行もなく、今四十余年振り同窓の友との旅行は夢のように現在の平和な世の中を本当に有難いと思

高女の幹事当番は、年度の終りに年女(千支の)として新年会の設営をして、次年度にパトントチすると、次年度の幹事当番の人も、諸行事を担当して、最後にまた年女として新年会を開いて次の年度へ送るといふ風に、面白い巡り廻しになっている

参加者全員

和気あいあい

秋晴れの那須への旅

吉川 仁子 (高11回)

昨秋十月四日・五日の那須高原と日光江戸村への旅は、天候に恵まれ楽しいものでした。

第一日目の昼食は、りんどう湖ファミリ―牧場。そこで青空をバックに記念撮影。ふもとの紅葉には早いものの、那須岳へのロープウェイから見

下す山の斜面は、赤黄緑が入り混りすばらしい眺望で、頂上駅気温十一度が実感でないほどの秋晴れでした。宿泊先「ホテル山楽」は和風で落ち着いたが、宴会たけなわの地震には驚かされました。震度3だったとか。

第二日目は、緑のトンネル

第二日目は、緑のトンネル

楽しくなごやかに盛り上がる

63年新年会報告

今年の新年会は、二月七日大型寒気団の来襲にもかかわらず、荒木校長先生、関、石原両教頭先生、田川事務長さんをお客様にお迎えして、百五十余名の同窓会員がビューホテルに集まりました。

閉会に先立って、幹事の高12回の代表が紹介されました。

始めに、斎藤会長さんから、来年九十周年を迎えるに当たって諸行事の計画や、募金の協力依頼などのお話があり、続いて校長先生のお祝辞をいただき、関教頭先生のご発声で乾杯をいたしました。

高女の幹事当番は、年度の終りに年女(千支の)として新年会の設営をして、次年度にパトントチすると、次年度の幹事当番の人も、諸行事を担当して、最後にまた年女として新年会を開いて次の年度へ送るといふ風に、面白い巡り廻しになっている

「椎の樹」会報のお礼文

前号の発行に際し、同窓会報「椎の樹」を下さり誠に有難うございました。貴会の発展に貢献し、誠に有難うございました。去る一月十四日(土)に、生前の海原清と感謝申し上げます。貴会の発展に貢献し、誠に有難うございました。

信頼のターミナル ウエディング

交通便利な 駅の上にある ホテル



高崎ターミナルホテル

高崎駅ビルモントレー 6F~10F TEL (0273) 25-3311(代)

# 同窓会だより

## 第三十六回

### 東京地区同窓会

東野 芳子(高12回)

七月五日(日)の東京地区同窓会は、朝からの雨にもかかわらず、一五〇名の参加者を迎えて品川区の八芳園に於て盛大に行われました。

高崎からは顧問の荒木校長先生、関教頭先生、小林定時制教頭先生、校内理事の金井先生、笹本先生が御参加下さいました。

### 平形 秀子(26回)

昭和二年三月、昭和になつて最初の卒業生である私達一四九名は、半世紀余を経過した今、五九名はすでに他界し、住所不明十三名、ブラジル移住一名を除くと七六名である。このうち東京等県外は二二名「活動」といっても喜寿を迎えた私達の関心事は先ずクラス会である。二月には新年会を「魚仲」で、五月には県内の温泉などで二泊三日と、大体この数年決まっている。熱海や秩父に遠出したこともあながくつろいで話し合う時間を長くというので県内になった。榛名のゆうすげ、万座、四万、磯部、水上その他で、毎回二五名〜三〇名集まる。

昔の心に立ち返って思いのままに語り、思いのままにふるまえるこのひとときの心安らかさは、人生のオアシスともいえようか。最後に心をこめて校歌を歌い、心豊かに別れを惜しみつつ次回を期し散会する。同窓会よりの伝達・依頼等もここで主に行なわれる。クラスの維持費年間千円もここで集め通信費・慶弔費

### 橋本 節子(35回)

第35回生はいつごろ程からか「やよい会」と称します。卒業の年昭和十一年と云えば二・二六事件を始めとし国を挙げて大戦に向けての非常時で忠君愛国、滅私奉公、勤儉節約、良妻賢母、等どれ一つでも現代人に嫌われそうな信条を課された時代でした。そんな中で青春を過ごし、大かたの人が妻となり母となつた

も二回に分けて撮影され、カメラマンも高崎出身の方で、和気合々の内には会は終りました。来年の再会を約して、各々のクラス会へと散会致しました。都にはめづらしい緑あふれる庭園が心に残っております。

### 椎樹展を開催

(高女OG絵画展)

致しました。アトラクションには、榎本玲子さん(旧姓佐藤・42回)のソプラノ独唱会を楽しみ、用意された美味しいお料理に満腹し、すばらしい一日を過ごして参りました。

今年、高12回・13回の方々四十名程出席し、会場ではおなつかしい豊田先生にもお目にかかれ、三十年振りに再会した友などもあり、華やかでなつかしい同窓会となりました。

今年、高12回・13回の方々四十名程出席し、会場ではおなつかしい豊田先生にもお目にかかれ、三十年振りに再会した友などもあり、華やかでなつかしい同窓会となりました。

今年、高12回・13回の方々四十名程出席し、会場ではおなつかしい豊田先生にもお目にかかれ、三十年振りに再会した友などもあり、華やかでなつかしい同窓会となりました。

今年、高12回・13回の方々四十名程出席し、会場ではおなつかしい豊田先生にもお目にかかれ、三十年振りに再会した友などもあり、華やかでなつかしい同窓会となりました。

### 宮下 初枝(43回)

多彩な行事を楽しむ翠麗会 私たち43回は昭和十九年に卒業致しました。(卒業時は二〇〇名)十年前に、入会制による親睦と学習の会を結成し、会員は現在一五六名おります。会の名称は、入会者より公募し、常盤の松の緑の如く、何時迄も変らぬ美しい友情と、見目麗しくありたい

多彩な行事を楽しむ翠麗会 私たち43回は昭和十九年に卒業致しました。(卒業時は二〇〇名)十年前に、入会制による親睦と学習の会を結成し、会員は現在一五六名おります。会の名称は、入会者より公募し、常盤の松の緑の如く、何時迄も変らぬ美しい友情と、見目麗しくありたい

多彩な行事を楽しむ翠麗会 私たち43回は昭和十九年に卒業致しました。(卒業時は二〇〇名)十年前に、入会制による親睦と学習の会を結成し、会員は現在一五六名おります。会の名称は、入会者より公募し、常盤の松の緑の如く、何時迄も変らぬ美しい友情と、見目麗しくありたい

多彩な行事を楽しむ翠麗会 私たち43回は昭和十九年に卒業致しました。(卒業時は二〇〇名)十年前に、入会制による親睦と学習の会を結成し、会員は現在一五六名おります。会の名称は、入会者より公募し、常盤の松の緑の如く、何時迄も変らぬ美しい友情と、見目麗しくありたい



▲43回生ひまわり会の活動



▲椎樹展会場にて

### 中沢 節子(高4回)

旅の頁

高4回生の第七回同期会は昨年五月、みどり萌える草津に会場を移した初めての一泊旅行になりました。

前例もなく幾重かの思いを抱えた出発でしたが、ヴィレツジのご厚意にも甘えさせて頂いての晩餐会では、中沢晃三氏の「温泉とその歴史」など貴重な講話を拝聴でき、フランス料理フルコース、二次会はボン・クォーレを借り切つたのダンスタイム、昼食に美味手打ち蕎麦を大阪屋でというゴージャスな内容でした。

### 城田三枝子(高9回)

多用途な時節に東京地区からも多数ご参集下さり、お名前の記憶とて朧ろな友がらほころぶ笑みにたちまち遠い学窓の日の面影をふり向かせれつつ、様々な過程の不安は高原の樹木の濡に洗われ放たれるおもいがいたしました。

そして、改めて感謝せられたことは、皆様方のお返しの文面、初対面の筆蹟の行間にもご丁寧に綴ってくださいました温かい励ましのお言葉。幹事一同の感激でございました。

おなつかしい先生方のご書面は、一巡させて頂いた宴席に花をそえていただきましたし、若々しいお姿の金井、横堀両先生がご同席の往復バス車中は終始華やき揺れる社会科セミ会場と化しました。

食へ歩き等でストレスを解消しております。来年は還暦を期してハワイ旅行を計画しております。アメリカの会員二名も楽しみに待っています。

翠麗会はその名に恥じない様、お互に苦楽を共にし乍ら、一生仲良く、健康で幸せな毎日を送りたいと思っております。

……行き届きながら豊かな旅情への、いま深謝の刻の奥にはクラス幹事さんのお骨折りましたご協力の熱意に支えられた和やかな彩りが思い出のページを染めて忘れることはできません。

また、いつの日か自然のふところにお心遊ばせての触れあい、機が重ならぬようう期待いたします。

……行き届きながら豊かな旅情への、いま深謝の刻の奥にはクラス幹事さんのお骨折りましたご協力の熱意に支えられた和やかな彩りが思い出のページを染めて忘れることはできません。

……行き届きながら豊かな旅情への、いま深謝の刻の奥にはクラス幹事さんのお骨折りましたご協力の熱意に支えられた和やかな彩りが思い出のページを染めて忘れることはできません。

……行き届きながら豊かな旅情への、いま深謝の刻の奥にはクラス幹事さんのお骨折りましたご協力の熱意に支えられた和やかな彩りが思い出のページを染めて忘れることはできません。

### 高19回同期会 62年10月18日 椎樹館



……行き届きながら豊かな旅情への、いま深謝の刻の奥にはクラス幹事さんのお骨折りましたご協力の熱意に支えられた和やかな彩りが思い出のページを染めて忘れることはできません。

# 同窓会総会開催のお知らせ

春光うららかな季節となりました。  
同窓生の皆さまには益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
本年も、下記により総会を開催いたしますので、お誘い合せの上、多数ご参集下さいませようご案内申し上げます。

記

日 時 昭和63年 5月 2日(月) 12時

場 所 母校 椎樹館

日 程 12:00~13:00 昼食

13:00~13:40 総会

14:00~15:00 講演

講師 弁護士 富岡美恵子氏  
「これからの女性の生き方」

会 費 1,000円

母校においては10時より記念式典  
11時より生徒による発表(演劇その他)

## 同窓会維持費の報告について

昨年より同窓会活動の資金として、維持費の徴収にご協力いただきましたが、62年10月現在を別表の通り報告いたします。特に支出の内容は同窓会会報「椎の樹」創刊号の用途になっております。

収入の部 (昭和62年10月末日現在)

項 目	内 訳	金 額
維持費	2,974名	7,403,000円
雑収入	広告料	20,000円
計		7,423,000円

支出の部

項 目	内 訳	金 額
印刷費	趣旨書、封筒	738,000円
送料	会報「椎の樹」	
郵送料	趣旨書、会報	1,777,580円
消耗品費	事務用品、罫紙等	64,680円
会議費		38,360円
手数料	振替用紙	119,740円
計		2,738,360円

差引残額 4,684,640円  
(内50万円を62年度一般会計に繰入れ)  
4,184,640円

「椎の樹」第二号をお届けいたしました。これがお手許に届く頃は、桜のさかりでございませうか。  
思惟庵の庭もすっかり落ちついて、四季折々の変化が、私達に潤いのひとときをもたらしてくれそうです。  
今回は、各回期の活動状況を特集いたしました。毎回特集を組んで、紙面を魅力のあるものにしていきたいと願っております。  
投稿をお寄せくださいました皆様方、どうもありがとうございます。御意見、御感想をお待ちいたしております。  
編集委員長 武井成野(高4回)

昭和六十四年が母校九十周年を迎える事について、記念事業が計画されております。その一つとして同窓会員を中心とした作品や資料を展示する記念展示館(仮称)が建設されることになり、この新事業を完成するために、六十二年度の総会において、募金

## 九十周年記念事業 募金の現状について

の趣意に賛同し協力することになりました。現在、各期別毎に募金活動を進めておりますが、途中の現状を報告しますと、途中の標金額一、五〇〇万円に達成するよう、深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

募金目標額期別表の現状 単位(万円)

卒 期	人 数	金 額
1~22		6万
26	94	10
30	111	15
32	115	15
33	103	15
34	109	15
35	115	18.9
37	124	25
42	141	35
45	270	40
高 8	445	40
高 9	459	40
高10	490	40
高14	501	35
高19	573	30
特別寄附		30万
合計金額		4,099,000円

(昭和63年 3月10日現在)



### 同窓会名簿 再発行の時期到来

よりよい名簿完成のため、ご協力下さいますよう、お願い申し上げます。

◎名簿完成期 昭和六十四年十二月末

◎価格 前回と同じ 一冊 四千元

◎出版社 日本名簿出版

昭和六十年にコンピュータ方式によって、発刊された名簿も、早、次期発行の運びとなりました。

その準備のため、本年六十三年度より皆様の所に、住所等の確認や購入希望調査のハガキが再々届くと思えます。

②購入は予約制です。この点も連絡を受けたら、すぐに申し込んで下さい。

※事務局に予備はおきません。

①出版社からハガキが送られてきたら、速やかに返送お忘れなく。



◇「椎樹館と校舎の棟間通路」——母校90周年記念事業の一つとして、校舎と椎樹館の2階を接続する通路で昭和63年3月完成しました。(校舎より椎樹館を望む)

月 日 曜	行 事 名	会 場	◎昭和63年度 行事予定
5月2日(月)	総会及び講演	母校 椎樹館	
7月3日(日)	京浜地区総会	東 京	
10月中旬	研修旅行	会津若松方面	
2月上旬	新年会	高崎市内	
3月上旬	新会員入会式	母校 椎樹館	
3月下旬	会報3号発刊		
会議	1) 期別幹事役員会 2) 常任幹事役員会	6月、9月 随 時	

同窓会等、各種ご宴会にご利用くださいませ



高崎市椿町33 TEL 22-4511(代) ◆大駐車場完備◆